

日本 NGO 連携無償効果検証プログラム 実施概要 案

2008 年 7 月.
外務省民間援助連携室
(事務局) (社) シャンティ国際ボランティア会

1. 本プログラムの目的

NGO、外務省、学識者が合同で日本 NGO 連携無償資金協力案件の事業効果を検証することにより、NGO の効果検証能力及び事業実施能力の向上を図るとともに、日本 NGO 連携無償協力事業の質的向上ひいては国民（納税者）に対する外務省及び NGO のアカウンタビリティの向上に寄与することを目的とする。

2. 実施方法（効果検証の方法）

(1) 海外で中規模以上（NGO 連携無償案件程度）の開発事業経験を有する NGO とともに事業効果を検証するために必要なツール（簡便な手段）を考案・検討する。

(2) その一つの案として、効果検証のための標準シートをより使いやすいものに発展させる。また、効果を検証するための有効な指標（ものさし）について検討する。

(3) 標準シート及び指標の有効性、簡便性を実証するために、NGO 連携無償資金協力の支援を受けた実績のある NGO および有識者、外務省員（大使館員等）からなるミッションを形成し、現地視察を行う。

(4) 調査結果を踏まえ、上記 2 (2) の標準シート及び有効な指標が効果検証のツールとして実効性があるか確認し、標準シートについては、その実効性を更に高めるため、改良し工夫する。

指標についても意見交換を行い、学校建設、地雷不発弾除去などの事業の効果を検証するための指標について具体例を提示する。

(5) 以上を、報告書としてとりまとめ、上記 2 (1) で共に検討した NGO 等に結果を報告する。

(6) 最終的には、多くの NGO が自主的に効果検証を行う際に活用頂き、ご意見を頂く。

（特に二期にまたがる日本 NGO 連携無償資金協力案件についてはシート提出を奨励する）

(7) なお、効果検証プログラムは来年度以降も継続的に実施していく予定であり、対象国、分野、実施する NGO の規模等の状況に左右されない、標準シートの内容、効果検証の実施の方法等について検討する。

3. 現地視察対象（案）

平成 20 年度は、多くの日本の NGO（32 団体）が現地事務所を構え活動しているカンボジアにおいて、教育（学校建設）、不発弾処理の 2 分野、具体的には以下の事業 3 件について効果検証シートを適用し、有効性を確認する。

(1) 案件名：カンボジア南東部における不発弾処理事業（2 次）

- (契約締結日2005年7月) (特活) 日本地雷処理を支援する会 (JMAS) 62,244,040円
- (2) 案件名: チュウトム小学校建設計画
(契約締結日2005年7月) (特活) スクール・エイド・ジャパン 7,975,887円
- (3) 案件名: ポーサット州オーサンダン小学校建設計画
(契約締結日2006年3月) (特活) スクール・エイド・ジャパン 4,237,200円

4. 参加するNGO (案)

- (1) 視察対象案件本部より1名ずつ計2名 (JMAS, スクール・エイド・ジャパン)
- (2) フィールド (含むカンボジア) において活動実績が多いNGOより1名ずつ計2名 (AMDA、日本紛争予防センター)

5. 留意点

効果検証の標準シートの作成にあたっては、国際的なスタンダードであり、NGOにとってもなじみがある、DAC (開発援助委員会) が定める5項目 (妥当性、効率性、有効性、インパクト (効果)、自立発展性) に沿ったものとする。

6. フィードバック

効果検証で得られた結果をNGOが新規事業の形成等に生かせるよう工夫する。

7. 今後の作業スケジュール (案)

- 6月6日 (金) 有志NGOとの意見交換会 (終了)
- 7月10日 (木) (10:30~12:00) ミッション参加NGOとの意見交換、打ち合わせ
- 7月15日 (火) 連携推進委員会で進捗状況報告 (民間援助連携室)
- 7月22日 (火) (14:00~15:30) ミッション参加NGOとの打ち合わせ
- 8月3日 (日) ~8月12日 (火) カンボジア現地調査、現地講習会
- 9月中旬 報告書作成、報告会

(了)